

【KYT2011の進め方】

1. 1ページの図と状況を見ながら、チームメンバーで事故を複数想定し、【想定される事故】の欄に記入してください。
 2. 3ページを見てください。実施手順①の欄には、予め想定された事故の事例が記載されています。
この事例を題材とし、ページ右上の評価点を参照しながら実施手順②の空欄に評価点を記入してください。
 3. 実施手順③では、想定された事故が起こった原因となる不安全行動、不安全状態を3件ずつ記入ください。
 4. 実施手順④で、対策案を記入してください。
 5. 実施手順⑤で、②の評価点から対策の点数を引き、リスクレベルが低くなったことを確認してください。
 6. 実施手順⑥で、KYTリーダーが今回のKYTで重要だと思った点を挙げ、全員で唱和してください。
 7. 2ページを見てください。回答例を参照し、事例をご確認下さい。そういった意見もあるのかといった“気付き”が重要です。
- 以上で今月のKYTは完了です。お疲れ様でした。

【KYTを進める際のポイント】

A: KYTの目的(危険予知能力の向上、危険回避能力の向上、安全行動の習慣化の3つを目指しています。)をその都度確認し、実施する目的を共有して下さい。

※KYTでは「危ない気がする」とか、「止めたほうが良い」といった危険に気付く能力が必要。次に「どうすれば危険を回避することができるか」の判断能力が必要。最終的には「普段から危ないものに近寄らない」、「日常生活でも家族の安全も確保する」といったレベルを目指しています。

B: 始める前に“天候”“体調管理”“ヒヤリハット体験”などで意見が出やすい雰囲気を作ります。

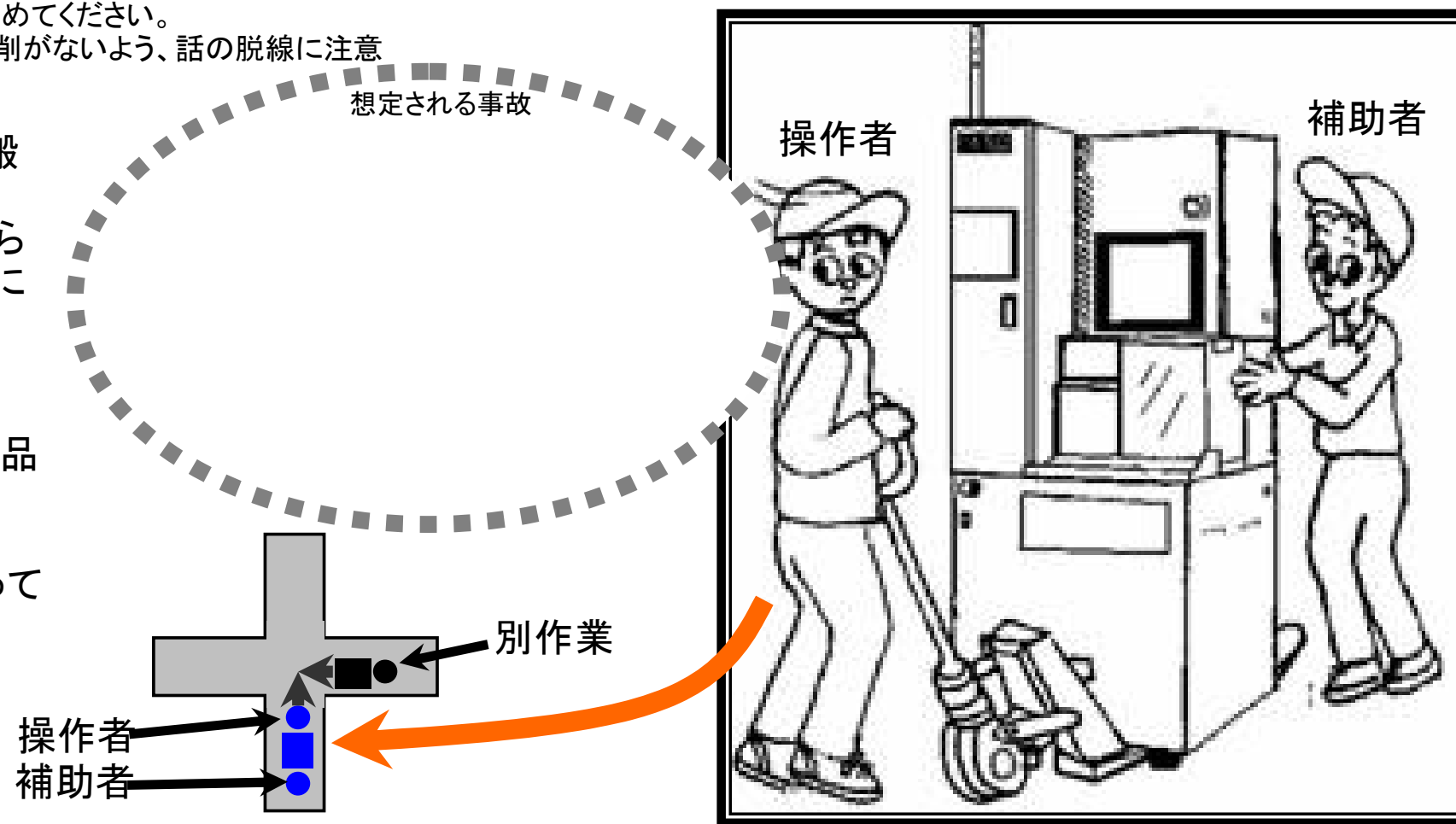
C: 特定の人だけに発言が集中しないように進めてください。

D: 効果的な実施時間は30分です。集中力を削がないよう、話の脱線に注意

【状況】

- 1) ハンドリフトを使って製品を運搬しています。
- 2) コーナーの直前で別の方向から他の運搬作業が近づいているのに操作者が気づいた。

- (補足)
- ・ハンドリフトの耐加重に対して製品の重量は範囲内
 - ・作業頻度は月に2回程度
 - ・ハンドリフトの使用前点検は行っています。



実施年月日:	2011 / 12 / 1
実施時間:	9:00 ~ 9:30
参加者: KYTリーダーに (L)、< >は社員番号用 (L)	< >、 < >、 < >、 < >、 < >、
欠席者:	▼▼

	【想定される事故事例】	ル
死	1. 音がしたような気がして、首を勢よく振り向かせた瞬間、首筋を痛めた。	数
重	2. 後ろを向きながらブレーキをかけようとした際、ハンドリフトのタイヤに右足が踏まれて足の甲を骨折した。	IV
中	3. ブレーキをかけようとして前傾姿勢になった際に、ハンドル部分が胸を圧迫して、肋骨を骨折した。	III
軽	4. 補助者がハンドリフトが思わず急ブレーキをかけたので前のめりになって額を製品にぶつけ裂傷(3針縫った)	II
赤	5. 思いっきりハンドリフトを止めようとした瞬間、腰に強い痛みを感じて動けなくなった。	I

【実施手順①: 下記に記載された“事故の想定”を確認する】

～だったので、～していて、どういった怪我を負う
 コーナーで接触寸前に気が付いて、思いっきり力をかけてハンドリフトを止めようとした瞬間、腰に急激な痛みが生じた。急性ヘルニアで全治2ヶ月

【実施手順③: 事故が発生した原因を3つずつ記載する】
 受傷者(補助者含む)の不安全行動: ルール無視、ヒューマンエラーなど

操作者が前方をよく見ていなかったのが遅れた。

コーナー付近でスピードを緩めなかった。

作業前に十分なストレッチを行っていなかった。

不安全状態: 作業環境、作業管理(手順、教育、監視など)

コーナーに高いものが置いてあったので他の運搬物に気づきにくい職場環境だった

運搬作業では幅の広いメイン通路を通るなど運搬ルールがなかった

見張りを立てるといった運搬ルールが明確でなかった

【実施手順⑥: KYTリーダーが決めて全員で唱和】

周囲の安全確認をしっかりと行いながら作業するヨシ

今回のKYTで注力する点をリーダーが決めること。
 唱和例) 保護具の徹底ヨシ、周囲の安全確認ヨシ、手順書通りの作業ヨシ、危ない行動を見たら声掛けヨシ

【実施手順②: ①の事故内容についてリスクの大きさを点数にする】

大きさ	作業頻度	可能性	合計点数	リスクレベル
6	2	2	10 _A	

対策点数	対策タイトル	点数	対策例
	作業・危険源の削除	20	台車運搬をコンベア自動搬送
	置き換え	15	脚立作業を地面でモップを使って作業する
	技術的対策	12	回転物を囲う、インターロック、局所排気装置
	表示・教育・ルール化	各2	注意喚起、TBM、手順書の作成・見直し
	保護具	2	保護手袋、保護眼鏡、ヘルメット

回答例

【実施手順④: 対策タイトル毎に記載する。意見が出ない場合は斜線可】

対策タイトル	実現可能で具体的な対策内容	点数
作業・危険源の削除	コンベアで自動搬送を行う	20
置き換え	電動フォークを使用する	15
技術的対策	ハンドリフトに音を出すようにする	12
表示・教育・ルール化	見張りをつける、運搬作業前にストレッチ、補助者がコーナーの確認をする、作業前の打ち合わせ、コーナーに物を置かない(コーナーを切る)、コーナーにミラー設置	各2
保護具	—	2

【実施手順⑤: ②のリスク点数から④で実現させる対策点数を減点する。】

合計点数	対策点数	対策点数	対策点数	対策点数	合計点数	リスクレベル
10 _A	12	2	2	2		

※表示、教育、ルール化、保護具に関しては複数の対策(4つ迄)を合算可能
 ※12点以上の対策と2点の対策との併用を可能とします。(より0点に近づけるため)2011.10から変更
 ↑0点以下は0点で表記

